

(4) 児童図書・研究図書の収集

児童及び児童図書を研究する利用者のために、児童室では、子供たちに読んでほしいと願い選んだ図書・課題図書・各種受賞図書・教科書に取り上げられている作品の原書及び郷土出身作家・画家の作品を中心に収集した。

研究資料については、児童文学や絵本についての作家論・作品論を中心に収集した。復刻書、雑誌も昨年に引き続き収集した。

(5) 逐次刊行物の収集と整備

利用者の多様な要望に対応すべく、各分野の定評ある雑誌を収集すると共に、今年度も文学関係雑誌の復刻版を収集し、資料の充実を図った。

新聞については、地元紙、中央紙の収集保存に努め、特に今年度は、福島新聞の大正初期と地元紙のマイクロフィルム化により、汚・破損防止に努めると共に、郷土関係記事のクリッピング等によって利用者の利便を図った。

[表1] 平成10年度逐次刊行物受入整理状況

区 分	購 入	寄 贈	計
新 聞	22	59	81
雑 誌	211	922	1,133
官 報 等	3	—	3
計	236	981	1,217

[表2] 平成10年度資料の受入状況

区 分	購 入	寄贈・他	計
一 般 資 料	7,429	788	8,217
郷土・行政資料	622	2,679	3,301
児 童 図 書	942	362	1,304
児童図書研究室資料	845	79	924
館 外 用 図 書	3,265	1,996	5,261
計	13,103	5,904	19,007

### 第3節 館内奉仕

直接来館あるいは電話や文書による県民の資料・情報要求が多く寄せられている。

内容的にも、ここ数年来の多様化、専門化の傾向はますます顕著になっているので、資料の充実とともに利用環境の整備にも努力した。

#### 1 調査相談

当館に情報や情報源の調査をを求める利用者は、本年度も持続して増加した。これらの要求に可能な限り応えるために、参考資料の整備はもとより各専門機関との連携、レファレンスツールの充実、担当職員の資料運用力の向上などサービス体制の強化に努めた。

その結果は総件数13,665件であった。

[表3] 記録された参考質問の分析

(単位：件)

区分	郷土資料	一 般			逐次刊行物	小計	児童	計
		人文	社会	自然				
口頭	943	1,904	2,772	960	640	7,219	645	7,864
電話	1,038	1,064	833	362	415	3,712	108	3,820
文書	88	1,224	337	142	106	1,897	84	1,981
計	2,069	4,192	3,492	1,464	1,161	12,828	837	13,665
		9,598						

### 2 館内奉仕

約14万3千冊の開架図書をはじめ全蔵書が容易に、そして自由で快適な環境のもとに閲覧できるよう、案内・表示の工夫や的確な利用者対応に留意した。

また、利用者の図書館要求を把握し、できるだけそれらを運営に反映させるために努力した。

### 3 館外個人貸出

一度の来館につき、1人4冊以内で2週間の館外貸出を行い、非所蔵資料は「予約制度」により提供し、遠隔地の利用者には地元の図書館に返却可能な制度を設けるなど、いつでも、どこでも、誰にでも、求める資料が確実に入手でき、しかも利用しやすい条件づくりに努めた。

館外貸出利用者数の割合は、一般66.5%、児童33.5%、館外利用図書冊数の割合は、一般63%、児童37%であった。

[表4] 館外個人貸出利用者数

区 分	人 数	構成比(%)	区 分	人 数	構成比(%)
勤 め 人	10,450	44.9	学 生・生 徒	4,984	21.4
自 家 営 業	1,230	5.3	小 計	23,278	100.0
主 婦	2,763	11.9	児 童	11,719	—
無 職	3,851	16.5	合 計	34,997	—

[表5] 館外個人貸出利用冊数

分 類	冊 数	構成比(%)	分 類	冊 数	構成比(%)
総 記	1,420	2.3	語 学	881	1.4
哲学宗教	3,179	5.2	文 学	12,173	19.8
歴史地理	6,306	10.3	郷土資料	3,338	5.4
社会科学	10,464	17.1	雑 誌	2,950	4.8
自然科学	5,711	9.3	小 計	61,369	100.0
工学工業	5,582	9.1	1 児 童	36,006	—
産 業	3,134	5.1	合 計	97,375	—
芸 術	6,231	10.2			